

<b>留 学 報 告 書</b>
------------------

記入日:2019年  
年8月30日

所属学部／研究科・学科／専攻	文学部 史学科 アジア史専攻
留学先国	トルコ共和国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: 中東工科大学 現地言語: Orta Doğu teknik universitesi
留学期間	2018年10月～2019年5月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	歴史学部 <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2019年8月14日
明治大学卒業予定年	2021年3月
<b>留学先大学について</b>	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:10月～1月中旬 2学期:3月～5月末 3学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	2万3千人
創立年	1956年

留学費用項目	現地通貨 (トルコリラ)	円	備考
授業料	0	0円	明治大学へ納金
宿舍費	10,400リラ	20万円	
食費	7,500リラ	15万円	自炊、外食費
図書費	500リラ	1万円	教科書含む
学用品費	250リラ	5000円	文房具類
教養娯楽費	7,500リラ	15万円	冬休み旅行費
被服費	1,500リラ	3万円	
医療費	3,500リラ	7万円	歯科治療費
保険費	4800	96,090円	形態:明治大学指定の保険加入費
渡航旅費	8,000リラ	16万円	行き;10万 帰り;6万
雑費	2,500リラ	5万円	調理器具、洗剤など生活用品
その他		円	
その他		円	
その他		円	
<b>合計</b>	46,450	921,090円	

## 渡航関連

渡航経路: 東京～アンカラ

渡航費用

チケットの種類	エコノミー
往路	10万
復路	6万
合計	16万

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

トルコ航空、地球の歩き方

## 滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

大学内にある寮(家賃は最も高い)

2)部屋の形態

 個室 OR  相部屋(同居人数:3人)

3)住居を探した方法:

中東工科大学の ICO が事前に希望する寮のアンケートをとってくれるが、希望通りにはまったくならない。入居する寮の連絡がとても遅く、学校が始まる2～3週間前に決まる。

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

私が滞在先の寮は非常に快適であった。3人部屋で、室内にトイレとシャワー、冷蔵庫があった。他の寮にはないので、値段が高いのはこれらの施設による。キッチン、洗濯ルーム、自習室等は共用。スーパーやPTTからも近い。

## 現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか?大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

 利用する機会が無かった 利用した:大学内には病院があるのでかかろうと思えばすぐに行ける。トルコ語必須。

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

学内外で問題は特になかった。滞在許可書等の書類に関する疑問はICOに相談した。

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

トルコ国内は日本より治安が悪いと思われるが、中東工科大学はアンカラの中心地よりも離れており、更に大学は閉鎖的環境で、教授や生徒など限られた人しか入ることが出来ないため非常に安全だった。

中心地クズライでも特に治安の悪さを感じたことはなかった。交通事情が日本とは異なるので、事故には注意した。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

大学内では、建物のなかにいればどこでもネットが繋がる。街に出るときにはネットが必要だが、ほぼすべてのカフェやレストランでネットのパスワードを聞けば教えてもらえる。トルコの電話番号が必要だったため携帯を購入したが、1カ月で2G使えるパケットが25リラ(日本円で500円)だった。毎月決まった日に更新する必要もないので、必要な時だけパケットを購入していた。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

トルコのカード事情を知らなかったため、新生銀行のカードでトルコのATMで現地通貨を引き落とせるようにしていた。実際は、ほんの少額であってもトルコではカードでの支払いがどこでも可能なので、バスやメトロなど交通機関を使用する際に小銭が必要になる程度。最悪なければトルコ人が助けてくれる。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

日本の調味料(味噌、みりん、料理酒、ほんだし、味の素、七味、わさび、ごま油、めんつゆ、ドレッシング)、カレールーやカップ麺などインスタント食品。学用品(3色ボールペン(トルコにはない)、ボールペン替え芯、ふせん(粘着力が違う)、蛍光ペン(トルコのは太くてペンケースの邪魔になる))。目薬(トルコにはない)、その他風邪薬系(トルコのは強力すぎる)。休暇中に旅行に行く場合は、行きたい場所の地球の歩き方

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った、渡航前に留学先大学から指示があった、渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)

特に現地で支払う必要はなかった。

## 卒業後の進路について

1) 進路
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
各大学院のホームページ、まいなびやリクナビなどの就活サイト、現地で会った駐在員の方々のお話
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
社会インフラに関わっている企業の企画・資材調達・営業を希望
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
私は、商社に入りたいと漠然と思ってはいたが、留学目的である専門科目の学習の妨げになるようだったので現地で就活はしなかった。留学中さまざまな経験を通して、自分の価値観も可能性もどんどん広がっていき、やりたいことも変わっていく。日本にいる同期は就職や進学などどんどん進路を決めていき、不安に思うこともあったが、海外で自分しかできない経験をし、身に着けたスキルや知識を生かして自分に出来ることは何か、じっくり考えることが大切だと思う。とにかく当初の目的を忘れず、目の前にある課題をこなしながら、留学に全力で取り組むようにした。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
13単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Balkan History I	バルカン史 I
科目設置学部・研究科	歴史学部
履修期間	秋学期
単位数	3単位(6.0 ECTS)
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	聴講(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	オメル・トゥラン教授
授業内容	バルカン半島の通史。前期ではオスマン帝国初期までカバーする。
試験・課題など	毎週、教科書や参考文献をすべて事前に読みこんでおく必要がある。急に質問されたり意見を問われることもあるので、予習は必須。中間2回、期末1回。中間と期末で試験形式は変わらない。地図問題10問程度、と語句説明10問程度、エッセイが3題程度。地図や語句説明は非常に細かい部分まで出題されるので、参考図書をほとんど暗記レベルで読み込まないと満点は取れない。エッセイは、教授が授業中くりかえし強調したポイントを抽出して自分なりにまとめておけばかける。出題テーマのあたりはつけやすいと思う。
感想を自由記入	配布される史料や教授の話は興味深く面白いので、バルカン史に興味がある人には楽しい授業だと思うが、トルコ人の歴史学部生でも途中でドロップするくらいには難しい。トルコ語の史料も使用され、トルコ人にはよく知られている地名や用語が多用され、授業中トルコ語で説明が始まり英語解説がされないことが非常に多いので、外国人学生には不利で難しいともいえる。20人程度の少人数授業で、外国人学生は私一人だったためか、よく授業が英語からトルコ語に切り替わり、他の生徒もトルコ語で発言したので、何を話しているのかさっぱりわからないこともあった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Commun. in Internaional Relations 1		国際関係で学ぶコミュニケーション I	
科目設置学部・研究科	国際関係学部		
履修期間	秋学期		
単位数	3単位(6.0 ECTS)		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	聴講、プレゼンテーション(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に180分が1回		
担当教授			
授業内容	国際関係に関する記事やテーマをもとに、関連する英語の語彙や表現を学ぶ。授業自体は難しい。外国人学生はしょっちゅう意見を尋ねられる。履修者は多い。		
試験・課題など	中間3回、個人プレゼン1回、グループプレゼン1回。中間試験は語彙テストだが、授業で説明された語句をしっかり暗記しておけば解ける。個人プレゼンは英語力や王れ然内容よりも、決められた時間内にプレゼンを終わられるかや、プレゼン中の振舞い方が評価の対象になる。グループプレゼンは勝手にメンバー分けされ、わりと難解なお題が出される。		
感想を自由記入	国際関係学部の先生方は英語が非常に流暢なので、聞き取りやすかった。語彙学習は難しくなく、先生もユーモアあふれる人だったので楽しく英語が学べる授業だった。個人のプレゼンはテーマはほぼ自由で、時間も長くないので英語力を伸ばしたい人にはよい授業だと思う。グループプレゼンではトルコ人のルーズさを思い知るが、メンバーとは仲良くなれる。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Politics in the Balkans 1		バルカン政治史 I	
科目設置学部・研究科	国際関係学部		
履修期間	秋学期		
単位数	3単位(6.0 ECTS)		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	聴講(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に180分が1回		
担当教授	ムスタファ・トルケシ教授		
授業内容	主にバルカン半島の近代政治史。国際関係を広く考える授業なので、扱う史料が膨大なうえ、非常に難しい内容なのでついていくのも非常に難しい。主に4年生など上級生が履修している。難しすぎるので履修者は少ない。		
試験・課題など	中間テスト1回、期末テスト1回。エッセイと語句補充。授業で取り扱った大量の論文から、一本の論文の内容をピンポイントで聞いてくる。扱った論文全ての内容を完璧に頭に叩き込まないと何も書けないので、非常に難しい。周りの履修学生は4年生が多かったが、彼らもとても苦戦していた。試験が難しい分、日ごろの授業で課題となった論文をパワーポイントにまとめて発表すると、加点がもらえるシステムになっている。		
感想を自由記入	周囲の学生は非常に積極的に発言していた。レベルの高いディスカッションを目の当たりにし、自分の知識不足を痛感する授業だった。		



履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Beginning Turkish I		初歩トルコ語	
科目設置学部・研究科	外国語学部		
履修期間	秋学期		
単位数			
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	聴講(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が2回		
担当教授			
授業内容	基本的なトルコ語の会話表現について学ぶ。初歩クラスは外国人留学生が対象で、留学期間に必要な表現から学んでいく。文法的な内容などはあまりやらない。		
試験・課題など	毎週クイズが1回、中間・期末が1回ずつ。毎授業数ページの宿題が出る。		
感想を自由記入	事前に自分で学習していったため、初歩レベルは非常に簡単だった。ひとつ上のレベルの授業履修を希望したが、履修者がほかにいないことから開講してもらえなかった。簡単すぎるから履修の必要はないと言われたが、一応履修させてもらい、最初の方は通っていたが、既習部分の繰り返しであることと、他の授業の予習に時間を割く必要性から途中から履修をやめた。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Balkan History II		バルカン史 II	
科目設置学部・研究科	歴史学部		
履修期間	春学期		
単位数	3単位(6.0 ECTS)		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	聴講(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に180分が2回		
担当教授	オメル・トゥラン		
授業内容	前期のバルカン史 II の続き。特にバルカン地域の民族アイデンティティについて取り上げることが多い。		
試験・課題など	地図テスト1回、中間2回、期末1回。地図テストは前期のものとまったく同じ。		
感想を自由記入	前期と同様に、外国人学生は自分一人だった。履修者の増加と、内容が前期に比べ何回になったこともあってか、授業が全てトルコ語で行われるようになった。そのことについて先生と話したところ、教科書を読めばわかると言われたので、授業に出るのを途中でやめて、その時間は寮で教科書を読むようにした。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Intro. International Relations		国際関係論導入	
科目設置学部・研究科	国際関係学部		
履修期間	春学期		
単位数	3単位(6.0 ECTS)		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	聴講(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に180分が1回		
担当教授			
授業内容	国際関係論に関する基本的な考え方を学ぶ。世界史の内容が頭に入っていればそれほど難しくない。		
試験・課題など	中間2回、期末1回。選択式だが、高得点を取るのは意外と難しい。毎週、自習の学習内容部分の教科書を読んでおくように言われる。事前にアップロードされるパワーポイントにも目を通すとよい。		
感想を自由記入	概説なので内容はそこまで複雑ではない。先生の英語は非常に聞き取りやすい。テストには教科書とアップロードされるパワーポイントの内容が出題されるので、授業後半はほとんど出席する学生がおらず、100人ほどのクラスのはずが5人程度しかいなかった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
History of the Turkish Revolution		トルコ革命史	
科目設置学部・研究科	歴史学部		
履修期間	秋学期		
単位数	2 単位(2.0 ECTS)		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	聴講(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1 週間に120分が1回		
担当教授			
授業内容	前半はトルコ革命の歴史をパワーポイントを使いながら先生が解説。後半は生徒が作ってきた 5 分程度のパワーポイント発表。		
試験・課題など	全授業に出席するか、パワーポイントを作って来てどこかの授業で一度発表するかの二択。わたしは前者を選択した。授業は教科書通りの内容で、特に難しくない。英語のリスニングの練習と思って出席していた。		
感想を自由記入	この授業の最終授業で、先生が出席確認を忘れていたため、念のために先生に出席したとその場で自己申告しましたが、最終週が欠席扱いになり、出席日数不足判定で単位がもらえなかった。頑張って1限に毎週出席していたので、悔しかった。		



### 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

2017年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	9月中旬、トルコへの友人と10日間の旅行。帰国後、トルコ留学を決心。留学フェスタに参加。
10月～12月	10月から1か月間、英語を自力で猛勉強。21日、IELTS学内試験。 11月、IELTS出願スコア取得後、留学計画書の作成、面接対策。 12月、面接選考。冬休み、韓国旅行。
2018年 1月～3月	1月、成人式。 2月、トルコ留学に備え、1か月間カナダのトロント大学に短期語学留学。
4月～7月	4月、春学期開始。英語で行われる授業の履修を増やす。 5月、明治大学を通じオンライン英会話カランメソッドを3か月間受講。 6月、中東工科大の奨学金申請書類を準備・提出。渡航前オリエンテーション。 7月、留学届の提出。明大指定の保険加入。長期留学者就職ガイダンス。予防接種。期末テスト。JASSO留学前報告書提出。
8月～9月	8月、夏休み。予防接種。日本トルコ学生会議の本会議で、約2週間トルコを訪れる。 9月中旬、トルコへ出発。在トルコ日本大使館の夏祭りに参加。中東工科大にて外国人留学生向けオリエンテーションに参加。在留届の提出。
10月～12月	10月、授業開始。履修登録。滞在許可書の取得。トルコの銀行口座開設。寮で料理パーティ。日本人留学生でカレーパーティー。中間テスト。 12月、中間テスト。アンカラ日本人会忘年会。
2019年 1月～3月	1月、授業終了、期末テスト。アンカラ日本人会新年会。冬休み、3週間かけてバルカン半島8か国を旅行。 2月、春学期開始。中東工科大学と並行してネブシェヒル大学の日本語学科の授業の手伝いをしに毎週末はネブシェヒルに滞在。中間テスト。
4月～7月	4月、中間テスト。明治大学の履修登録。 5月、中間・期末テスト。留学終了。 6月、歯の治療。荷造りし、日本へ輸送。
8月～9月	8月中旬、帰国。就活のためインターンに参加。
10月～12月	

## 留学体験記

<p>留学しようと決めた理由</p>	<p>もともと西アジア地域やイスラームの歴史を学んでいて、その興味から大学2年生の時に友人とトルコへ旅行したことがきっかけで、留学を考えるようになりました。決心に至った理由は、まず旅行から帰国して留学先を調べたところ、交換留学先にトルコがあったことです。これは行くしかない、と思いました。また、イスラーム教徒の多い現地で学べば、イスラームに関する理解を深められると思ったからです。さらに、多くのシリア難民を抱えるトルコでなら、現代の主要な問題となっている移民・難民問題の現状を考える上で良い示唆を得られるとも思いました。</p> <p>中東工科大学は、トルコでは1、2を争う超名門大学で、非常に優秀な学生が集まっています。卒業後、トルコにとどまらず世界でも活躍するような学生とともに、高いレベルの授業を受けて勉強できるという環境にも魅力を感じていました。</p> <p>そのほか、日本より物価が安く、親日国であるという点も、両親を説得するうえで理由として挙げました。</p>
<p>留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備</p>	<p>まず語学力、トルコ語よりも英語力を伸ばすことに注力しました。明治大学からの派遣留学ではIELTS5.5のスコアが取得できれば留学可能ですが、一般留学生は4技能全て7.0以上のスコア基準で入学してきているので、非常に高いレベルの英語力が要求されると考え勉強していききました。事前にやった対策を挙げておくと、毎日TED Talksを聞いたり、英語の世界史の教科書を読んだり、英語で行われる授業を出来るだけ取るようにしたり、オンライン英会話を受講したりしました。また2月の1か月間は、明治の学部研修でカナダのトロント大学に短期の語学留学もしました。</p> <p>以上の学習である程度英語に免疫はつけていったつもりでしたが、現地の学生の英語レベルにはほど遠く、現地では苦労しました。新しい環境で生活をはじめ、難易度の高い授業について行くので精一杯なのに、あっという間に試験期間に入りエッセイ形式の試験などを出されるので、自分が履修する予定の授業内容はかなり細かい部分まであらかじめ日本で予習しておいた方がいいと思います。とにかく英語の勉強はやれるだけやっておき、現地でもたくさん使用して伸ばしていけばいいと思います。</p> <p>また、トルコでは英語がほとんど通じません。留学前に行ったトルコ旅行ですでにそのことを知っていたので、基本的なトルコ語の勉強はしていききました。『トルコ語文法読本』という本で勉強しましたが、トルコ語を学びに留学するという人以外はある程度の文法事項を頭に入れておけば十分だと思います。トルコ人は非常に親日的なので、積極的に助けようとしてくれます。大学内ではトルコ語を使用する機会はほとんどないので、最悪トルコ語が全く分からなくても留学に支障はないと思いますが、買い物や食事に町の中心へ出かける際は知っていた方が便利です。レストランでの注文や基本的な挨拶は勉強しておきましょう。</p> <p>また、留学を決めてからすぐに、トルコの情報収集と人脈作りのために日本トルコ学生会議に参加しました。トルコ人学生と日本人学生で毎月勉強会があるほか、8月には本会議で1週間程度一緒に行動をともにすることで現地の学生と親睦を深めることが出来ました。トルコの物価や経済状況、国民性や、中東工科大学のようなトルコ国内の名門大で学んでいる現地の大学生のレベルを知る機会にもなり、かなりのアドバンテージになりました。本会議で知り合ったトルコ人学生とは留学中も何度かお世話になりましたし、何より現地に知人がいるというだけで心強かったです。</p>
<p>この留学先を選んだ理由</p>	<p>もともとトルコと周辺地域の歴史について大学で学んでいて、現地のよりレベルの高い大学で勉強して理解を深めたいと思ったからです。留学前にトルコ旅行でトルコ人のあたたかさや食事など文化面に惹かれた点もあります。また現代社会で深刻になっている移民や難民の問題についても関心があり、トルコはシリア移民の最大の受け入れ国でありながら国内にクルド人問題も抱えているので、現地で暮らすことで少しでも実態を知れば、という狙いもありました。</p>
<p>大学・学生の雰囲気</p>	<p>大学はアンカラの中心部クズライから少し離れた、自然豊かで閑静な場所にあり、キャンパスは驚くほど広大です。各学部塔にはカフェや食堂、自販機が必ずついていました。そのほかに図書館や自習室など勉強できる場所はもちろん、ジム、グラウンド、プールなどの運動施設も学生は無料で利用できます。大学敷地内にはスーパー、レストラン、カフェ、銀行、郵便局、文具店、書籍店、携帯ショップ、写真館、薬局、ゲームセンターまであります。グラウンドや芝生の上ではいつもたくさんの学生がおしゃべりに花を咲かせたり、本を読んだり勉強したりしていました。現地の学生は非常に優秀で、また自分たちが優秀であるという強い自負も持っている印象を受けました。極左の思想を持つ学生が多く、よく政権批判も耳にしました。政治的思想を理由として、留学最後の授業はボイコットデーになり、実際に出席した学生はおらず先生方も授業を休校にしていたので驚きました。一般的にトルコ人はかなり世話好きなので、友人になったトルコ人にはかなりお世話になりました。よくトルコ料理を作って部屋に持ってきてくれたり、トルコ語を教えてくれたりしました。ただ日本と比べて人間関係の距離が非常に近いので、その違いに悩んだり戸惑うことも多くありました。何事もはっきりと断りを入れておくことが大切だと思いました。</p>



寮の雰囲気	<p>わたしが滞在したプライベート寮は、1 部屋に 3 人の学生が割り振られ、各部屋にシャワーとトイレがありました。建物右側は女子、左側は男子寮になっていて、地下にはキッチンや洗濯室、自習室があり、これらは男女共同利用でした。プライベート寮は費用がほかに比べ割高ですが、一番設備が整っていて広く、水道施設が各部屋にあることがやはり便利でした。(パブリック寮は安いですが、シャワーやトイレ、水道などは共同利用で部屋にはありません)また、ほぼ毎日清掃が入るのでとても清潔でした。寮のエンタランスは自分の学生証をかざさなければ入れないシステムになってはいましたが、友人を部屋に招くことは可能で、設備の良さから大勢の学生が寮に出入りしていました。特に地下のキッチンではよく料理パーティーが行われていました。わたしも何度か友人と日本食パーティーなどをしました。また、寮全体として、停電になったり冷蔵庫や洗濯機が壊れたりすることはしょっちゅうありましたが、復旧も早かったです。</p>
交友関係	<p>留学したばかりのころは、留学生でオリエンテーション等を受けるなど行動をともにしていたことから、同じ交換留学生と仲良くなりました。いろいろな国からの留学生と、それぞれの国の料理を作ってパーティーをしたりもして交流していました。ですが授業が始まってからは留学生とはなかなか会う機会が無くなり、また半期留学ですぐに帰国してしまった学生も多かったため、同じ寮に住んでいるトルコ人学生と仲良くなりました。お互いの部屋を行き来して勉強会をしたり、夜にパーティーをしたり、一緒にレストランに食事に出かけたりと非常に良い関係を築くことが出来たますが、距離の取り方や接し方でけんかっぽい雰囲気になったりすることもありました。トルコ人は日本人よりも距離が近い関係を好むので、それをとどき重たく感じることもあるかもしれません。臆さず自分の意見をはっきり言うこと、無理な時ははっきり断ることが大切だと思います。</p> <p>また、わたしが留学したアンカラには同時期に計6人の日本人大学生が留学しており、大使館主催のイベントの手伝いを一緒に行ったりしていました。留学に関する悩みを共有できる日本人仲間は非常に貴重でしたし、心の支えになりました。アンカラに限らず、他国に留学している友人とは積極的に連絡を取り、情報交換をしたり、辛いときはお互いに励まし合ったりしていました。特に時差の少ない国に留学する友人とは時間を気にせずに連絡が取りやすかったため、とても助かりました。感謝しています。</p>
困ったこと、大変だったこと	<p>トルコに到着してすぐに日本のカードで ATM から現金を引き落とそうとしたところ、ATM にカードが吸い込まれてしまい出てこなくなった時が困りました。この現象はトルコではよく起こることですが、私の場合は金曜日の朝に吸い込まれてしまい、金・土・日と銀行は休みだったので、カードがどうなるのかとても不安でした。月曜の朝に銀行に行き事情を説明したところ、すぐに返してくれました。それ以降、留学中は必ず銀行付属の ATM を、時間帯に気を付けて利用しました。</p> <p>留学で最も困ったことは、授業でトルコ語が多用されることです。中東工科大学では原則英語で授業を行う決まりがありますが、トルコ語を使用しない先生はいませんでした。学生もトルコ語で質問することが多く、授業で誰かがトルコ語を使い始めると、どんどん話されるトルコ語の割合が増えていきました。先生は、英語でまず説明し、トルコ語でさらに解説・補足することも多いので、トルコ人学生と比べると留学生は圧倒的に不利だったと思います。トルコ人学生と留学生の割合からか、授業によっては英語を使用してもらえない場合もありました。使用されるトルコ語は専門性の高いものになるので、ある程度トルコ語を勉強していけばいいというレベルのものではありません。授業では英語を使用するよう、きちんと先生にお願いし、それでも状況が改善されなければ、他のことに時間を使った方が個人的にはいいと思います。</p>
学習内容・勉強について	<p>明治大学でも学習していたトルコ・バルカン地域の歴史に関して主に勉強しました。そのほか、国際関係や英語に関する授業も履修しました。どの授業も聴講が主でしたが、英語に関する授業ではプレゼンテーションやグループ課題などが多かったです。</p> <p>4 年生が履修するような授業は、授業内容・履修学生ともに特にレベルが高いので苦労しました。ですが非常に勉強になりますし、履修を無事に終えられると自信にもなりました。ちなみに、中東工科大学では授業の録音は基本的に禁止です。</p>

課題・試験について	<p>課題と言うよりも、予習しなければならぬ量が膨大でした。主に論文や教科書の読み込みでしたが、予習しなければ授業内容が理解できず、授業が分からないと復習もままならず、テスト勉強も十分な対策が出来なくなってしまうので、とにかくまずは予習をこなすようにしましたが、事前に終わらないこともありました。自分にはこなさきれないと思う量でも、周りにきっちり予習内容を頭に入れて授業を受けている学生はいるので、自分にもできるはずだと言い聞かせて取り組んでいました。ただ、睡眠時間まで削ってやると、当たり前ですが授業中眠くなってしまうたり、体調を崩してしまうこともあるので、無理出来るラインを自分なりに設定し、それを超えないようにした方がいいと思いました。</p> <p>試験についてですが、文系の授業は、エッセイ形式の試験が多いです。はじめは苦戦しましたが、何度も受けるうちに慣れました。よく集中して授業を聞いていれば、どのあたりを先生が出題しそうかあたりをつけることもできました。また、授業ごとに試験回数や試験時期は異なるので、ほとんど毎週何かしらの試験があるような状態でした。先に述べたように、予習・復習をしっかりすることが、最大のテスト対策になりました。</p>
大学外の活動について	<p>カッパドキアにあるネブシェヒル大学の日本語学科の授業に、授業アシスタントのような形で週末参加し、トルコ人学生と交流していました。また在トルコ日本大使館の職員の方々からお誘い頂き、週に1度フットサルをしていました。</p>
留学を志す人へ	<p>「留学しよう」、そう思って行動するだけでも何もやらない学生との間には違いが生まれます。その上で、その留学を終えてどのような自分になりたいのか、留学から自分が得たいことは何なのか、明確な軸を持って留学に臨んでほしいです。留学中に苦しくなったときや逃げてしまいたくなかったときは、その軸に立ち戻ることが大切だと思います。日本では経験できないことに積極的に挑戦し、異なる文化や価値観に触れることで、当初持っていた留学の目的が変わることもあると思いますが、軸だけはぶれないようにしてほしいです。</p> <p>留学では勉強、生活、交友関係、すべてが日本と異なり、全く新しいスタートになります。心が折れそうになった時は、そういった環境に身を置いて頑張っている自分を褒めてあげましょう。目の前のことだけに集中して取り組みながら、辛いことも留学ならではの経験と捉えるといいと思います。1年間は本当にあっという間です。アジア・ヨーロッパ・アフリカの架け橋となる国トルコで、留学という経験を、味わうように楽しんでほしいです。</p>

### 一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	運動	授業	授業	授業	授業	日本文化イベント 手伝い	
	自習	授業	授業	授業	授業	日本文化イベント 手伝い	運動
午後	自習、昼食	自習、昼食	自習、昼食	自習、昼食	睡眠	日本文化イベント 手伝い	自習、昼食
	自習	自習	自習	自習	買い物 作り置き	友人と夕食	自習
夕刻	自習、夕食	運動、夕食	自習、夕食	運動、夕食	自習、夕食	自習	自習、夕食
夜	自習、就寝	自習、就寝	自習、就寝	就寝	自習、就寝	就寝	就寝